

令和3年度

養成科 2年

シラバス

生産から流通・販売まで
アグリビジネスの実際を学ぶ

専門学校山梨県立農業大学校
〒408-0021

山梨県北杜市長坂町長坂上条3251

TEL 0551-32-2269

FAX 0551-32-2034

令和3年度養成科2年シラバス 目次

養成科2年

教 養	英語（2）	29
	体育（2）	30
	化学Ⅱ	31
	数学Ⅱ	32
	社会学（2）	33
	文章表現	34
生産技術	植物生理	35
	病虫害（2）果樹	36
	病虫害（2）園芸	37
	施設園芸	38
	農業施策	39
	農業法規	40
	国際農業と食料	41
	食品衛生	42
	農産物加工実習	43
	果樹栽培（2）	44
	野菜栽培（2）	45
	花き栽培（2）	46
	専門実習（2）果樹	47
	専門実習（2）野菜	48
	専門実習（2）花き	49
経営管理	農業マーケティング	50
	簿記（2）	51
	情報処理論（2）	52
	産地育成	53
アグリビジネスの実際	アグリビジネス論（2）	54
	先進農業研修	55
	先進農業派遣研修	56
卒業研究	卒業論文	57

科目名	英語(2) 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	養成科 2年	担当者	実務経験		
		若尾 美保子	英語塾講師		
ねらい	基本的な日常会話を楽しく学ぶとともに、欧米の文化や習慣の違いについて理解する。				
到達目標	農業生産現場などで、英語で自己紹介や説明ができるような語学力を身につけ、臆することなく外国人とコミュニケーションがとれる。				

授業の流れ	<ol style="list-style-type: none"> 1. あいさつ 2. ワンポイント英会話 3. レッスンテーマの導入、練習 4. モデル会話を使いListeningとSpeakingの練習 リスニングの練習方法・・・大づかみに聞く→ポイントを絞って聞く→内容確認 スピーキングの練習方法・・・後について読む→プリントを見ずにリピートする →2人1組対話練習→演じる 5. まとめと応用（ゲームなど） 				
回数	授業計画（レッスンテーマ）				
1	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で会話するときの姿勢や考え方 ・ListeningとSpeakingの練習（テーマ：別れの挨拶と表現） 				
2	<ul style="list-style-type: none"> ・日本との文化や慣習の違いについて ・ListeningとSpeakingの練習（テーマ：数字の読み方と聞き取り） 				
3	<ul style="list-style-type: none"> ・カタカナ英語との違いについて ・ListeningとSpeakingの練習（テーマ：数えられる名詞と数えられない名詞） 				
4	<ul style="list-style-type: none"> ・発音の法則 ・ListeningとSpeakingの練習（テーマ：謝罪の仕方） 				
5	<ul style="list-style-type: none"> ・会話の英文の作り方 ・ListeningとSpeakingの練習（テーマ：天気や気温について） 				
6	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の英会話学習の取り組み方 ・ListeningとSpeakingの練習（テーマ：良いニュースと悪いニュースの受け答え方） 				
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ListeningとSpeakingの練習（テーマ：過去の事例について話す） 				
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ListeningとSpeakingの練習（テーマ：忘れないようremindする） 				
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ListeningとSpeakingの練習（テーマ：過去進行形と今までのテストのまとめ。期末テスト） 				
10	<ul style="list-style-type: none"> ・テストの解説（50点未満は追試） ・時間の読み方とゲーム 				
評価方法・基準	授業参加数、授業態度、期末テストの結果（リスニングとスピーキング）				
テキスト・参考書	プリント				

科目名	体育(2) 実習	単位数	1	時間	30
対象学生	養成科 2年	担当者			
ねらい	スポーツを通じて、心身共に健康な学校生活を送るための体力や協調性などを養う。				
到達目標	団体種目の球技を中心に実施し、球技のルールと基礎技術を理解するとともに、学生の協調性や体力の向上を図る。				

回数	授業計画
1	ソフトボール① 守備・打撃練習、チームプレーの確認と練習、練習試合
2	ソフトボール② 守備・打撃練習、チームプレーの確認と練習、練習試合
3	ソフトボール③ 守備・打撃練習、チームプレーの確認と練習、練習試合
4	ソフトボール④ 守備・打撃練習、チームプレーの確認と練習、練習試合
5	バスケットボール① 基礎練習、チーム練習、練習試合
6	バスケットボール② 基礎練習、チーム練習、練習試合
7	バスケットボール③ 基礎練習、チーム練習、練習試合
8	バレーボール① 基礎練習、チーム練習、練習試合
9	バレーボール② 基礎練習、チーム練習、練習試合
10	バレーボール③ 基礎練習、チーム練習、練習試合
11	軟式野球① 守備・打撃練習、チームプレーの確認と練習、練習試合
12	軟式野球② 守備・打撃練習、チームプレーの確認と練習、練習試合
13	軟式野球③ 守備・打撃練習、チームプレーの確認と練習、練習試合
14	軟式野球④ 守備・打撃練習、チームプレーの確認と練習、練習試合
15	バレーボール④ 基礎練習、チーム練習、練習試合
16	バレーボール⑤ 基礎練習、チーム練習、練習試合
17	バレーボール⑥ 基礎練習、チーム練習、練習試合
18	バレーボール⑦ 基礎練習、チーム練習、練習試合
19	卓球、バドミントン① 基礎練習、練習試合
20	卓球、バドミントン② 基礎練習、練習試合

評価方法・基準	出席・態度・技能により評価する。
---------	------------------

テキスト・参考書	プリント
----------	------

科目名	化学Ⅱ 講義	単位数	2	時間	30
対象学生	養成科 2年	担当者	実務経験		
		花形敏男	元総合農業技術センター副所長 元専門技術員（土壌・作物）		
ねらい	毒物劇物取扱者試験（一般）の合格に必要な知識について学習する。				
到達目標	毒物劇物の種類と性質、取り扱い及び法令について学び、毒物劇物取扱者試験（一般）の合格を目指すとともに、農作業に係わる毒物劇物の安全使用に係わる化学の知識を理解する。				

回数	授業計画
1	毒物及び劇物に関する法規
2	
3	毒物・劇物（農業品目）の性状、貯蔵法、廃棄法等
4	
5	習熟度確認試験：毒物及び劇物に関する法規 答え合わせ
6	基礎化学 ・物質の構成（元素の周期表） ・元素の構成 ・化学式
7	習熟度確認試験：毒物・劇物（農業品目）の性状、貯蔵法、廃棄法等 答え合わせ
8	基礎化学 ・物質の量 ・化学の基本法則 ・気体の性質 ・液体の性質
9	基礎化学 ・溶液の濃度 ・化学反応と化学反応式
10	基礎化学 ・酸と塩基
11	基礎化学 ・塩 ・酸化と還元
12	基礎化学 ・主な化学反応式
13	基礎化学 ・有機化合物
14	基礎化学 ・炭化水素
15	基礎化学 ・酸素を含む炭素化合物
16	基礎化学 ・芳香族化合物
17	模擬試験、正答と解説
18	模擬試験、正答と解説
19	模擬試験、正答と解説
20	模擬試験、正答と解説

評価方法・基準	試験、レポート等で評価する。
---------	----------------

テキスト・参考書	毒物劇物取扱者合格教本（技術評論社）
----------	--------------------

科目名	数学Ⅱ 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	養成科 2年	担当者			
ねらい	高校までの復習を含め農業分野に必要な数学基礎の修得を、就職試験の題材を通じて行う。また、数学Ⅰで学習定着率の低かった分野の復習も行う。				
到達目標	農業分野で、特に重要と思われる仕事や濃度、個数・確率についての考え方・処理方法を身につける。				

回数	授業計画
1	仕事算・年齢算
2	濃度算・n進法
3	まとめ
4	和の法則・積の法則
5	順列
6	組み合わせ
7	事象と確率
8	確率の基本性質
9	独立な試行と確率
10	まとめ

評価方法・基準	試験、レポート等で評価する。
---------	----------------

テキスト・参考書	
----------	--

科目名	社会学(2) 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	養成科 2年	担当者	実務経験		
		加藤 肇	元農業大学校長 元専技資格 (普及方法・農村振興・花)		
ねらい	社会人として必要な一般教養の知識について学習する。				
到達目標	就職試験等で出題される一般社会常識を習得する。				

回数	授業計画
1	みんなの国を運営してみよう 財務省甲府財務事務所 市居係長
2	・財務省とは ・国の財政、予算の考え方 ・みんなの国を皆で運営してみる (グループワークシヨップ)
3	隣の国は何を考えてる ・アメリカはトモダチ? ・中国は世界の中心? ・イスラエル、アラブ諸国、インドって遠い国?
4	グループ発表
5	他人を思いやる ・災害はいつか誰にでも降りかかる ・備えよ常に 安全確認 先ず自分の安全確保
6	・災害ボランティア 身近な誰かに寄り添う
7	風評被害はなぜ起きる ・フェイクニュース ・放射能汚染で東北の農産物は危ない? ・台風の被害はどうやって発表する?
8	広報官としてどう危機管理するか (グループ討議、発表)
9	就職戦線、コロナ後の展望
10	試験

評価方法・基準	出席、小レポート、試験等で評価する。
---------	--------------------

テキスト・参考書	
----------	--

科目名	文章表現 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	養成科 2年	担当者	実務経験		
		深澤 眞悟	元農業系高校校長		
ねらい	日本語表現の基礎を学ぶ。				
到達目標	社会人として必要な正しい日本語表現を理解する。				

回数	授業計画
1	正しい仮名遣いと送り仮名、句読点・表記符号について
2	同音異義語、同訓異字について
3	手紙を書く 履歴書を書く
4	作文の練習
5	要点をまとめる ・とらえる 書き留める 伝える
6	
7	ビジネスメール ・構成 わかりやすい文章
8	
9	文章の推敲 文章をねる これまでの作品を推敲する
10	試験

評価方法・基準	試験、レポート等で評価する。
---------	----------------

テキスト・参考書	日本語表現法 改訂版（三省堂）
----------	-----------------

科目名	植物生理 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	養成科 2年	担当者	実務経験		
		赤池 良久	元総合農業技術センター副所長 元専門技術員（野菜・病害虫）		
ねらい	農作物の生長に影響する植物ホルモンや水ポテンシャル、植物栄養など植物生理現象を学ぶ。				
到達目標	植物ホルモンや水ポテンシャル、植物栄養などの基本を理解する。				

回数	授業計画
1	植物ホルモンの働き① 植物ホルモンとは オーキシン ジベレリン 気体のホルモンーエチレンーサイトカイニン
2	植物ホルモンの働き② アブシジン酸 ブラシノステロイド ジャスモン酸類 ストリゴラクトン
3	植物ホルモンによる信号伝達 植物ホルモン受容体 植物ホルモンの輸送 障害応答と病害応答による全身獲得抵抗性
4	植物の水ポテンシャルとは何か① 土壌・植物・大気連続体(S P A C)モデルにおける水移動 蒸散の仕組みと水ポテンシャル 水ポテンシャルと細胞の成長
5	植物の水ポテンシャルとは何か② 土壌・植物・大気連続体(S P A C)モデルにおける水移動 蒸散の仕組みと水ポテンシャル 水ポテンシャルと細胞の成長
6	植物栄養① 必須元素とその他の重要元素 元素の生理作用と欠乏症 土壌の主成分ケイ素とアルミニウム
7	植物栄養② 無機物質の移動、膜輸送 無機塩類の吸収と土壌 土壌の水素イオン濃度 (pH)
8	植物栄養③ 無機元素の代謝 窒素栄養 窒素固定 微生物との共生 窒素の代謝 イオウとリンの輸送と代謝
9	植物の温度反応 植物の生活と温度 適応と耐性 春化とその機構 紅葉と黄葉
10	修学度確認試験の実施

評価方法・基準	試験、レポート等で評価する。
---------	----------------

テキスト・参考書	絵とき 植物生理学入門（改訂3版）（オーム社）
----------	-------------------------

科目名	病害虫(2)(果樹) 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	養成科 2年	担当者	実務経験		
		若林喜久男	元農業系高校校長		
ねらい	果樹の病害虫とその防除方法の基礎知識を学ぶ。				
到達目標	主要な病害虫の特徴や診断方法、安全で効果的な防除方法を理解する。				

回数	授業計画
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作物の性質と細馬環境 ・ 病害虫の出現
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産を阻害する要因（鳥獣被害、環境変動） ・ 病害虫の発生要因と防除
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農薬選びの基本 ・ 殺菌剤と殺虫剤
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農薬の剤型と特徴 ・ 生物防除剤
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防除組み立ての基本 ・ ドリフト防止
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休眠期防除 ・ ブドウの病害虫
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果的な薬剤散布方法 ・ 降雨と薬剤の残効
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボルドー液の利用 ・ モモの病害虫
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展着剤の種類と特徴 ・ 防除暦と防除日誌
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試験

評価方法・基準	試験、レポート等で評価する。
---------	----------------

テキスト・参考書	果樹の病害虫防除（農文協）
----------	---------------

科目名	病害虫(2)(園芸) 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	養成科 2年	担当者	実務経験		
		赤池 良久	元総合農業技術センター副所長 元専門技術員(野菜・病害虫)		
ねらい	野菜・花きの主要な病害虫の安全な防除法を学ぶ。				
到達目標	主要な病害虫の特徴や診断方法、安全で効果的な防除方法の基礎を理解する。				

回数	授業計画
1	病気の発生環境と病原菌の侵入方法
2	害虫の加害方法と被害
3	RACコードについて 農業の有効成分を作用点や作用機構から分類した「RACコード」の活用
4	殺虫剤の作用機作について① 殺虫剤の作用機作とそのメカニズム
5	殺虫剤の作用機作について② 殺虫剤の作用機作別の薬剤の仕分け
6	殺菌剤の作用機作について① 殺菌剤の作用点とそのメカニズム
7	殺菌剤の作用機作について② 殺菌剤の作用機作別の薬剤の仕分け
8	野菜花きの防除体系(防除暦)の作成(演習)
9	野菜花きの防除体系(防除暦)の作成(演習)
10	レポート作成と提出

評価方法・基準	提出レポートで評価する。
---------	--------------

テキスト・参考書	今さら聞けない農業の話 きほんのき(農文協)
----------	------------------------

科目名	施設園芸 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	養成科 2年	担当者	実務経験		
		赤池 良久	元総合農業技術センター副所長 元専門技術員（野菜・病害虫）		
ねらい	施設園芸の設備、栽培技術等の基礎知識を学ぶ。				
到達目標	施設栽培の特徴を理解し、省エネルギー技術に係わる知見を習得する。				

回数	授業計画
1	施設園芸の沿革 日本の施設園芸の現況 温室・ビニールハウスの役割
2	施温室・ビニールハウスのメリット・デメリット 施設の構造と様式 建物の部位名称 施設の付帯施設、装置の役割とその活用
3	温室・ビニールハウスの被覆資材 ・被覆資材の利用目的と種類 ・外張り、内張資材の機能と特性
4	ハウス内の熱移動と保温性及び暖房効率の向上対策 ・温風暖房機の構造と名称 ・温度ムラの改善（送風ダクト、循環扇の有効利用）
5	作物生理から見た施設内環境管理① ・施設栽培における光の利用 ・光合成と光合成産物の転流・蓄積
6	作物生理から見た施設内環境管理② ・光合成作用の増進（炭酸ガス施用） ・転流の促進と呼吸消耗の抑制（変夜温管理）
7	園芸用施設（特にパイプハウス及び使用年数の長い鉄骨ハウス等）の降雪・積雪対策 ・雪害対策マニュアルの活用 ・低コスト・耐候性ハウスの現状
8	施設園芸における課題 施設園芸における技術開発の現状（実用化された技術）
9	施設園芸における技術開発の状況（現在開発中の技術） 大規模施設園芸及び植物工場施設の現状
10	修学度確認試験の実施

評価方法・基準	試験、レポート等で評価する。
---------	----------------

テキスト・参考書	ハウスの環境制御ガイドブック 光合成を高めればもっととれる（農文協）
----------	------------------------------------

科目名	農業施策 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	養成科 2年	担当者	実務経験		
		赤池 良久	元総合農業技術センター副所長 元専門技術員（野菜・病害虫）		
ねらい	日本農業の歴史と現状及び今後の方向について学ぶ。				
到達目標	過去の農業政策・農業施策を理解し、現在の農業政策と今後の方向を理解する。				

回数	授業計画
1	農業政策・農業施策の目的 江戸時代以前の主な農業施策（勸農） 明治期以降の主な制度 地租改正と寄生地主の発生 「農会法」（1899年）に基づく府県・群・市町村の農業技術普及組織
2	大正期から昭和前期 ・世界恐慌（1929年）の影響（農村疲弊の背景） ・農山漁村経済攻勢運動（1932年）
3	戦後混乱期（昭和20～30年） ・LALA支援物資から余剰農産物処理法（PL480 1954年）の影響 ・農地改革と農地法
4	高度成長期（昭和30～50年） ・農業基本法（1961年）の制定と農業構造改革 ・農業基本法がめざした方向と農業農村の変化
5	安定尾成長期（昭和50～平成2年） ・ガット・ウルグアイラウンド交渉（1986年） ・農業の国際化と農業施策の方向転換（生産性向上から環境保全へ）
6	バブル崩壊期1990年代以降（平成3年～） ・新農業基本法（食料・農業・農村基本法）成立の背景 ・食料・農業・農村基本法と農業基本法の比較
7	環境保全型農業推進の背景 ・持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律 ・農地・水・環境保全向上対策、営農活動支援交付金、環境保全型農業直接支援
8	世界貿易の中の日本農業 ・世界の農業生産・農産物貿易変化の特徴 ・経済連携協定（EPA/FTA）、世界貿易機構（WTO）
9	日本政府がめざす農業の方向 ・明治期以降一貫している規模拡大農業の推進 ・企業の農地取得と農業参入
10	修学度確認試験の実施

評価方法・基準	試験、レポート等で評価する。
---------	----------------

テキスト・参考書	農の同時代史 グローバル化・新基本法下の四半世紀 岸康彦（著）《創森社》
----------	--------------------------------------

科目名	農業法規 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	養成科 2年	担当者	実務経験		
		渡辺 実	元研究員（土壌肥料）		
ねらい	農地に関わる法律について学ぶ。				
到達目標	農業生産の基盤である農地に関わる法律について理解する。				

回数	授業計画
1	農地法① ・農地法の目的と体系 ・農地の権利移動の許可制度
2	農地法② ・農業生産法人制度 ・農地転用許可制度
3	農地法③ ・小作地所有制限 ・賃貸借の解除等の制限
4	農業経営基盤強化促進法① ・農業経営基盤強化促進法の体系 ・認定農業者制度 ・利用権設定等促進事業
5	農業経営基盤強化促進法② ・農地保有合理化事業 ・遊休農地の解消及び利用集積の促進
6	農地中間管理事業の推進に関する法律
7	農業振興地域の整備に関する法律① ・農業振興地域制度の目的
8	農業振興地域の整備に関する法律② ・農業振興地域内の農地転用 ・農用地区域内に含まれない土地
9	市民農園整備促進法 農地・農業の保全に関わる法律の全体総括
10	試験

評価方法・基準	試験、レポート等で評価する。
---------	----------------

テキスト・参考書	農地の法律早わかり（全国農業会議所）
----------	--------------------

科目名	国際農業と食料 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	養成科 2年	担当者	実務経験		
		若林 喜久男	元農業系高校校長		
ねらい	国際的に見た現在の日本の農業情勢について学ぶ。				
到達目標	農業の国際化が進む中で日本農業の在り方や食糧自給・食の安全・環境問題について理解する。				

回数	授業計画
1	食糧危機はやってくるか① 食糧事情を左右する穀物・大豆、食料と食糧、食料価格高騰の原因、食料の見通し
2	食糧危機はやってくるか② 伸び悩む穀物の収穫量、穀物の消費状況、食料問題のジレンマ
3	先進国＝工業国、途上国＝農業国は本当か① 10億人が栄養不足、先進国＝脱農業国は正しいか、食料の大量輸入国日本、先進国と途上国の農業力の差
4	先進国＝工業国、途上国＝農業国は本当か② 緑の革命、必要とされる虹色の革命、農業保護と農産物貿易、農業保護をめぐるルール作り
5	自給率と食料事情① 食料自給率の考え方、自給率低下の原因、大切な自給力
6	自給率と食糧事情② 安定した社会に必須の食料安全保障、市場経済と自由貿易、農業保護
7	日本農業は弱いのか 日本で元気な農業の形態、土地利用型農業の行方・活路となる三つの工夫
8	外国産食料と日本農業① 国産より外国産が安い理由、お金の換算できない農業の価値、農村コミュニティの協同力
9	外国産食料と日本農業② 重要な農業現場との距離、広がる農家の情報発信、農業・農村との接点の重要性
10	試験

評価方法・基準	試験、レポート等で評価する。
---------	----------------

テキスト・参考書	新版 農業がわかると社会のしくみが見えてくる
----------	------------------------

科目名	食品衛生 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	養成科 2年	担当者	実務経験		
		遠藤 好司	工学博士、山梨県食品技術研究会顧問		
ねらい	食品加工における衛生管理、食品の流通・加工に関する基礎を学ぶ。				
到達目標	農産物加工に必要な食品衛生に関連する法律、食中毒の種類と防止対策を理解する。				

回数	授業計画
1	衛生管理の必要性・食品衛生の基本 食品安全行政と法規（食品安全基本法、食品安全委員会、食品衛生法等）
2	食品の変質（食品と微生物 食品の腐敗と変敗）
3	食中毒の分類と予防対策
4	食品の衛生的な取り扱い HACCPによる衛生管理
5	施設や設備の衛生管理 GAPによる農業における安全衛生管理
6	異物混入の防止対策（事例の紹介） 食品中の汚染物質
7	食品の器具と容器包装
8	食品添加物（種類と用途、安全性評価）
9	新しい食品の安全性問題（有機農産物、遺伝子組み換え食品他）食品の展示
10	試験
評価方法・基準	試験、レポート等で評価する。
テキスト・参考書	イラスト 食品の安全性（東京教学社）

科目名	農産物加工実習 実習	単位数	1	時間	30
対象学生	養成科 2年	担当者	実務経験		
		向井 のり子	栄養士		
ねらい	収穫した農産物の付加価値を高めるとともに、規格外品を商品化するための加工技術を習得する。				
到達目標	加工品の種類や加工品製造の基礎技術を理解する。				

回数	授業計画
1	大豆の加工①-1 味噌づくり
2	野菜の加工① 野菜のピクルスづくり ・酢の効果について キュウリの醤油漬けづくり
3	果実の加工① モモのシロップ漬けづくり ・保存ビンの処理方法について
4	果実の加工② ブドウのコンポートづくり 大豆の加工①-2 味噌の天地返し
5	米の加工① 五平餅づくり 野菜の加工② ハッシュドポテト
6	コンニャクイモの加工 コンニャクづくり
7	野菜の加工③ 野菜の漬けもの、大根干し
8	大豆の加工② 豆腐、おからクッキーづくり
9	小麦粉を使った加工① おやきづくり ・地域の特徴を出す材料の選定
10	小麦粉を使った加工② ほうとうづくり

評価方法・基準	出席、態度、技能、レポート等で評価する。
---------	----------------------

テキスト・参考書	プリント
----------	------

科目名	果樹栽培(2) 講義	単位数	2	時間	30
対象学生	養成科 2年	担当者	実務経験		
		若林 喜久男	元農業系高校校長		
ねらい	山梨県産果樹の品目別の専門技術を学ぶ。				
到達目標	モモ、ブドウ、スモモなど山梨県の主要果樹の品種特性や栽培技術を理解する。				

回数	授業計画
1	・ 果実の生育と消費
2	・ 果樹経営の特徴
3	・ ブドウ品種の特性（植原葡萄研究所見学）
4	
5	・ 果樹の生育過程
6	・ 受精と果実の発育
7	・ 樹形と整枝・剪定
8	・ 生育期の管理
9	・ 土壌管理
10	・ 施肥
11	・ 苗木生産
12	・ 果樹園開設
13	・ 追熟・貯蔵
14	・ 果実の加工
15	・ ブドウの栽培管理
16	
17	・ モモの栽培管理
18	
19	・ 学習のまとめ
20	・ 試験

評価方法・ 基準	試験、レポート等で評価する。
-------------	----------------

テキスト・ 参考書	果樹栽培の基礎（農文協）
--------------	--------------

科目名	野菜栽培(2) 講義	単位数	2	時間	30
対象学生	養成科 2年	担当者	実務経験		
		赤池 良久	元総合農業技術センター副所長 元専門技術員(野菜・病害虫)		
ねらい	野菜の品目別の専門技術を学ぶ。				
到達目標	主要な野菜の生理生態、基本管理作業と品目作型別の栽培方法を理解する。				

回数	授業計画
1	ナス科野菜の栽培① トマト
2	ナス科野菜の栽培② ナス
3	ナス科野菜の栽培③ ピーマン、パプリカ
4	ウリ科野菜の栽培① キュウリ
5	ウリ科野菜の栽培② メロン
6	ウリ科野菜の栽培③ スイカ
7	現地見学 総合農業技術センター、地域の直売所
8	学校内のトマトの栽培状況確認 イチゴのヤシガラ培地養液栽培
9	ウリ科野菜の栽培④ カボチャ
10	アブラナ科野菜の栽培① キャベツ
11	アブラナ科野菜の栽培② ハクサイ
12	アブラナ科野菜の栽培③ カリフラワー、ブロッコリー
13	アブラナ科野菜の栽培④ ダイコン
14	各種野菜の栽培① イチゴ
15	各種野菜の栽培② レタス、ゴボウ
16	各種野菜の栽培③ アスパラガス
17	各種野菜の栽培④ スイートコーン
18	各種野菜の栽培⑤ ネギ
19	各種野菜の栽培⑥ タマネギ
20	まとめと試験

評価方法・基準	試験、レポート等で評価する。
---------	----------------

テキスト・参考書	野菜栽培の基礎(農文協)
----------	--------------

科目名	花き栽培(2) 講義	単位数	2	時間	30
対象学生	養成科 2年	担当者	実務経験		
		深澤 眞悟	元農業系高校校長		
ねらい	主要な鉢花類や切り花類における栽培管理方法並びに現地先進事例について学習する。				
到達目標	鉢花や花壇苗、切り花の主な品目・品種、生理生態、生産・流通状況や、花き栽培で重要な施設の活用方法と省力化技術を理解する。				

回数	授業計画
1	総合技術センター高冷地分場見学
2	・ 花卉業界 ・ 育種
3	・ 育種 ・ 技術分析①
4	・ 卒業研究発表 ・ 成長開花
5	・ 成長開花 ・ 技術分析②
6	・ 卒業研究に関する資料発表 ・ 成長開花
7	・ 開花調整の技術 ・ 技術分析③
8	・ 卒業研究発表 ・ 技術分析④
9	・ 切り花 ・ 技術分析⑤
10	・ 苗生産 ・ 試験

評価方法・基準	出席点、試験、レポート等で評価する。
---------	--------------------

テキスト・参考書	草花栽培の基礎(農文協)
----------	--------------

科目名	専門実習(2)果樹 実習	単位数	6	時間	180
対象学生	養成科 2年	担当者	玉井 重則		
ねらい	モモ、ブドウについて、樹相の観察と環境条件を考慮し、自らの判断で管理するための技能や、省力化技術、植物成長調整剤の利用技術などを習得する。				
到達目標	モモ、ブドウの高品質果実生産のための栽培管理技術、植物生長調整剤の効果的な使用方法、防除機の基本操作と効率的な防除方法を理解する。また、苗木から幼木期の管理技術について理解する。				
分野	授業内容				
応用技術	<ul style="list-style-type: none"> ・作物の生理生態、生育ステージを理解し、栽培環境や気象条件の変化などに臨機応変に対応できる技術・技能を習得する ・1年次に習得した栽培管理作業、計算手法、鑑定能力の向上を目指した実習を行う ・生産現場における労働時間（コスト）を意識し、作業速度や正確性の向上を目指した実習を行う ・スピードプレイヤーの基本操作と効率的な防除方法 ・農業基礎技能競技会の実施 ・果樹の試験研究成果（果樹試験場視察） 				
ブドウ	<ul style="list-style-type: none"> ・省力化、結実確保、品質向上のための植物成長調整剤の効果的な利用 ・消費者ニーズに合わせた果実生産に必要な房づくりの応用技術 ・摘粒技能の向上 ・樹形を乱さないための新梢管理技術 ・品種や樹勢の強弱に応じた整枝・剪定技術 ・施設栽培の現地事例の調査 				
モモ	<ul style="list-style-type: none"> ・省力化のための効率的な栽培管理技術 ・樹冠部位による果実品質の違い ・過去の着果量、果実品質など、樹体管理記録に基づいた高品質生産のための収量調節技術 ・果実選別、箱詰めの技能向上 ・贈答用高級果実としての販売方法 ・高品質生産を維持継続するための樹勢の強弱や樹齢に応じた整枝剪定技術 ・高品質生産の特徴的な現地事例の調査（大草仕立て、斜立主幹形仕立て、など） 				
評価方法・基準	出席、技能を基準に評価する。				
テキスト・参考書	桃の郷から～おいしい桃のできるまで～（山梨県果樹園芸会） 葡萄の郷から～おいしい葡萄のできるまで～（山梨県果樹園芸会）				

科目名	専門実習(2)野菜 実習	単位数	6	時間	180
対象学生	養成科 2年	担当者	横内 京子		
ねらい	野菜生産を行うにあたり、生産計画の作成と生産工程の管理ができる実践力を習得する。				
到達目標	野菜の生産・販売計画と経営収支計画の作成方法や、計画に沿った栽培・生産管理方法を実践し、計画的な野菜生産について理解する。				

分野	授業内容
応用技術	<ul style="list-style-type: none"> ・作物の生理生態、生育ステージを理解し、栽培環境や気象条件の変化などに臨機応変に対応できる技術・技能を習得する ・1年次に習得した栽培管理作業、計算手法、鑑定能力の向上を目指した実習を行う ・生産現場における労働時間（コスト）を意識し、作業速度や正確性の向上を目指した実習を行う ・農業基礎技能競技会の実施 ・野菜の試験研究成果（総合農業技術センター視察）
栽培計画	<ul style="list-style-type: none"> ・各学生の担当品目の決定と、生産・販売計画と経営収支計画の作成 ・生産計画にそった栽培・生産管理の実践 ・生産工程管理の実施方法と生育状況記録の付け方 ・生育ステージにあった管理方法と栽培管理技術について ・栽培上の問題点の抽出と対応策の検討 ・問題点の解決策の立て方
流通・販売	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパー、レストラン等との連携による情報交換 ・消費者と交流会における、聞き取り調査と意見交換 ・消費者の視点に立った、野菜生産への取り組み方 ・校内で生産した野菜の販売実習 ・市場、小売り等販売現場の視察研修

評価方法・基準	出席、技能を基準に評価する。
---------	----------------

テキスト・参考書	
----------	--

科目名	専門実習(2)花き実習	単位数	6	時間	180
対象学生	養成科 2年	担当者	小澤 藍子		
ねらい	花き関連産業で仕事をしていくために必要な技能、知識を習得する。				
到達目標	花きの生産、販売計画、経営計画の樹立ができるよう、必要な技能や知識を理解する。				
分野	授業内容				
応用技術	<ul style="list-style-type: none"> ・作物の生理生態、生育ステージを理解し、栽培環境や気象条件の変化などに臨機応変に対応できる技術・技能を習得する ・1年次に習得した栽培管理作業、計算手法、鑑定能力の向上を目指した実習を行う ・生産現場における労働時間（コスト）を意識し、作業速度や正確性の向上を目指した実習を行う ・農業基礎技能競技会の実施 ・花きの試験研究成果（総合農業技術センター視察） 				
栽培計画	<ul style="list-style-type: none"> ・各学生の担当品目の決定と、生産・販売計画と経営収支計画の作成 ・生産計画にそった栽培・生産管理の実践と栽培管理技能の向上 ・生産工程管理の実施方法と生育状況記録の付け方 ・生育ステージにあった管理方法と自然環境の変化に応じた栽培管理技術について ・栽培上の問題点の抽出と対応策の検討 ・問題点の解決策の立て方・生産計画、販売計画、経営収支計画の樹立 				
流通・販売、利用	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の先進農家、法人、市場、小売店等の視察 ・フラワーアレンジメント実習 ・花壇の設計と飾花 ・校内で生産した花きの販売 				
評価方法・基準	出席、技能を基準に評価する。				
テキスト・参考書					

科目名	農業マーケティング 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	養成科 2年	担当者	実務経験		
		渡辺 実	元研究員（土壌肥料）		
ねらい	農業経営における事業展開に活用する方法を学ぶ。				
到達目標	農業者の利益拡大や消費者の満足を得るための戦略を理解する。				

回数	授業計画
1	マーケティングとは マーケティングの基本用語と解説 マーケティングステージ(M1.0~M4.0) フィリップ・コトラーによる分類
2	マーケティングの考え方を生かした農業展開 食農現場におけるマーケティング戦略
3	マーケティングにおける分析手順 マクロ環境分析（PEST分析）
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境分析（30分析） ・ 戦略目標（SWOT分析）
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ マーケティングの最近の動向 ・ マーケティングミックスと4P
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ マーケティングサイクル（プロセス） ・ マーケティングサイクルとポジショニングとターゲティング
7	マーケティング分析の実践（スターボックスの例）
8	地域ブランドの事例研究（成功事例の紹介）と差別化戦略
9	農業マーケティングの全体総括
10	テスト

評価方法・ 基準	試験、レポート等で評価する。
-------------	----------------

テキスト・ 参考書	JA営農指導員テキスト マーケティング（全国農業協同組合中央会）
--------------	----------------------------------

科目名	簿記(2) 演習	単位数	1	時間	30
対象学生	養成科 2年	担当者	実務経験		
		農業会議 加藤肇	元農業大学校長 元専技資格 (普及方法・農村振興・花)		
ねらい					
到達目標	農業簿記の決算及び財務諸表を作成し、経営分析方法を理解する。				

回数	授業計画
1	簿記の目的、貸借対照表と貸借対照表、取り引きの8要素
2	簿記記帳が経営改善に必要 甲府税務署 加藤広報官
3	当座資産の勘定科目、貸借平均の原理 現金、現金過不足
4	当座資産の勘定科目と記帳② 当座預金 当座借越 小口現金
5	練習問題 (期首・期末貸借対照表、損益計算書、仕訳、元帳への転記)
6	練習問題の解説
7	当座資産の勘定科目と記帳 未収金、前払い金、仮払金
8	棚卸資産 繰越資材、未販売農産物
9	試算表 合計試算表、残高試算表、合計残高試算表
10	試算表 合計残高試算表 中間テスト
11	減価償却練習問題と解説 (旧定額法、旧定率法、新定額法)
12	純資産 資本金、引出金 (事業主勘定)
13	修繕費の損益的支出と資本的支出
14	試算表 合計試算表、残高試算表、合計残高試算表
15	決算 損益の繰延べと見越し、貸し倒れ引当金
16	8桁精算表 帳簿決算—元帳の締め切り
17	農業簿記検定試験受験 (7/4(日)am)
18	
19	農業簿記検定試験のまとめ
20	大テスト

評価方法・基準	小テスト2回60点、大テスト80、出席60計200点の平均で評価する。
---------	-------------------------------------

テキスト・参考書	農業簿記検定教科書3級 (大原出版)
----------	--------------------

科目名	情報処理論(2) 演習	単位数	1	時間	30
対象学生	養成科 2年	担当者	実務経験		
		システムインナカゴミ	パソコン教室講師		
ねらい	プレゼンテーションソフトの活用法と表計算ソフトを使ったデータ処理の方法やグラフ作成等を学ぶ。				
到達目標	プレゼンテーション用ソフトの活用方法とデータ処理におけるExcelの関数の使い方やグラフの活用方法を理解する。				

回数	授業計画
1	パワーポイント① ・プレゼンテーション資料作成
2	パワーポイント② ・画面切り替え、アニメーション
3	Excel① 関数 ROUND、ROUNDUP、ROUNDDOWN、COUNT、COUNTA 等
4	Excel② 関数 RANK、RANK.AVG、RANK.EQ、IF 等
5	Excel③ 絶対参照、複合参照
6	Excel表計算処理技能認定① 問題のポイント
7	Excel表計算処理技能認定② 練習問題 売上達成率表、3-D集合横棒
8	Excel表計算処理技能認定③ 練習問題 月別サービス商品売上表、マーカー付き折れ線
9	Excel表計算処理技能認定④ 練習問題 成績表、マーカー付きレーダー
10	Excel表計算処理技能認定⑤ 模擬試験 仕入元別販売数量表、3-D円
11	Excel表計算処理技能認定⑥ 模擬試験 都市別世代別人口表、3-D面
12	Excel表計算処理技能認定⑦ 模擬試験 経費内訳表、マーカー付き折れ線
13	Excel表計算処理技能認定⑧ 模擬試験 生活費表、積み上げ面
14	Excel表計算処理技能認定⑨ 模擬試験 商品地区別売上表、3-D積み上げ横棒
15	Excel表計算処理技能認定⑩ 模擬試験 分析報告書、塗りつぶしレーダー
16	Excel表計算処理技能認定⑪ 模擬試験 ノルマ達成表、100%積み上げ横棒
17	Excel表計算処理技能認定⑫ 模擬試験 復習
18	PowerPoint模擬試験 プレゼンテーション資料作成、復習
19	Excel表計算処理技能認定試験
20	PowerPoint試験、プレゼンテーション資料作成

評価方法	試験、レポート等で評価する。
------	----------------

テキスト・参考書	オリジナル PowerPointでプレゼンテーション サーティファイ Excel表計算処理技能認定試験 3級問題集(2019対応)
----------	--

科目名	産地育成 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	養成科 2年	担当者	J A山梨中央会		
ねらい	農業協同組合の組織、役割と事業の特徴等の基礎知識を習得する。				
到達目標	産地育成の核である農業協同組合の組織や役割と今後の産地育成の課題を理解する。				

回数	授業計画
1	「産地育成」とJ Aのかかわり 県内J Aの概要
2	J Aのあらまし① J Aとは 日本・世界の協同組合
3	J Aのあらまし② 協同組合と株式会社の違い 協同組合原則・J A綱領
4	協同組合・J Aの生い立ち
5	J Aの仕組み J Aの組織・運営
6	J Aの事業と活動 各種事業概観 「産地育成」と指導事業の関わり
7	情勢とJ Aの取り組み①
8	情勢とJ Aの取り組み②
9	全体の振り返り
10	テスト

評価方法・基準	試験、レポート等で評価する。
---------	----------------

テキスト・参考書	私たちとJ A (J A全中)
----------	-----------------

科目名	アグリビジネス論(2) 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	養成科 2年	担当者	実務経験		
		横内 正史	元農業大学校校長 元専門技術員(普及方法)		
ねらい	生産から流通、販売を一体と捉えたアグリビジネスを展開するために必要な知識を習得する。				
到達目標	自らが経営者となった場合に必要な経営管理手法を理解する。				

回数	授業計画
1	ビジネスモデル～販売戦略の前提としてビジネスモデルを考える
2	モデルを具体化「ビジネスモデルキャンパス」にまとめる
3	「誰に」「何」を提供するのか～モノを売るのではなく「価値」を売る
4	ターゲットを絞り込んで、ねらいを明確にする
5	観客が本当に求めているものを、とことん考える
6	顕在的ニーズと潜在的ニーズを探る
7	販売戦略は「4つのP」で考える
8	ビジネスモデル(応用編)の作成(1)
9	ビジネスモデル(応用編)の作成(2)
10	ビジネスモデル(応用編)の作成(3)
評価方法・基準	試験、レポート等で評価する。
テキスト・参考書	プリント

::

科目名	先進農業研修 実習	単位数	1	時間	30
対象学生	養成科 2年	担当者			
ねらい	地域の特性を活用した生産技術や販売戦略の立て方について学ぶ。				
到達目標	県外の先進的な農業生産や流通の現場を視察し、それぞれの地域における新しい生産技術や販売戦略の実際について理解する。				

分野	授業内容
オリエンテーション	先進農業研修の実施方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 視察先の事前調査の方法 ・ 派遣研修で学習する内容の明確化 ・ 報告書のまとめ方
現地研修	先進地における農業経営の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・ 視察先の事業内容、経営理念等 ・ 視察先の地域の農業事情 ・ その地域特有の生産技術 ・ 地域性を活かした販売戦略、販売方法 ・ 視察先の経営管理の考え方
取りまとめ	研修報告の作成の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・ 視察先の概要 ・ 視察先の事業内容 ・ 学習した内容 ・ 視察先の農業経営について感じたこと

評価方法・基準	研修報告を基準に評価する。
---------	---------------

テキスト・参考書	プリント
----------	------

科目名	先進農業派遣研修 実習	単位数	11	時間	330
対象学生	養成科 2年	担当者	玉井重則（果樹）、横内 京子（野菜）、 小澤藍子（花き）		
ねらい	農業生産の現場で仕事をするのに必要な基礎知識と技能を習得する。				
到達目標	先進的な経営を行っている農家・農業生産法人等に学生を派遣し、先進的な栽培技術、実践的な経営管理技術について理解する。				

分野	授業内容
オリエンテーション	派遣研修の実施方法 <ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の事前調査の方法 ・派遣研修で学びたい内容の明確化 ・報告書のまとめ方
現地研修	先進農家等の生産現場の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・先進的な栽培技術の実際 ・実践的な経営管理技術の理解 ・農家生活や企業的経営理念の理解
取りまとめ	研修報告の作成の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の概要 ・派遣先の経営内容 ・実習で学んだ内容 ・派遣先の農業経営について感じたこと

評価方法・基準	出席、研修報告を基準に評価する。
---------	------------------

テキスト・参考書	
----------	--

科目名	卒業論文 演習	単位数	9	時間	270
対象学生	養成科 2年	担当者	玉井重則（果樹）、横内 京子（野菜）、小澤藍子（花き）		
ねらい	農業生産を効率的に行っていくために必要となる課題解決能力を身につけるとともに、プレゼンテーションの技能を習得する。				
到達目標	実践的な学習の中から課題を見だし、課題解決のためのPlan(計画) → Do(実行) → See(評価)の進め方を理解する。				

分野	授業内容
課題抽出と計画作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習を通じた課題の見つけ方 ・ 栽培現場等における調査方法、結果の分析方法 ・ 計画作成方法 ・ 計画書の作成の実際 ・ 計画発表会におけるプレゼンテーション
実験・調査の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施計画に基づく、栽培管理方法、調査方法 ・ 生育ステージにあわせた栽培管理の実際 ・ 調査の実際と計画の進行管理方法 ・ 調査データの管理方法 ・ 中間成績書のまとめ方 ・ 中間報告の作成と発表会におけるプレゼンテーション
まとめ、論文作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査データのまとめ方 ・ 結果と考察のまとめ方 ・ プレゼンテーションソフトを使った発表資料の作成方法 ・ プロジェクト学習発表会におけるプレゼンテーション（12月中旬） ・ 関東ブロックプロジェクト発表会への参加（1月下旬） ・ 卒業論文の作成の実際

評価方法・基準	卒業論文で評価する。
---------	------------

テキスト・参考書	
----------	--